

2001 神戸学院大学 Green Festival

第173回

10月20日(土) 15:00開演

●千本博愛 チェロ・リサイタル

ピアノ/安宅薫

第174回

10月27日(土) 15:00開演

●川島成道 ヴァイオリン・リサイタル

ピアノ/風呂本佳苗

第175回

11月4日(日) 15:00開演

●ロニー金管五重奏団 コンサート

トランペット/小林好夫 トランペット/古田俊博 ホルン/猶井正幸
トロンボーン/石川浩 テューバ/稲川榮一

第176回

11月17日(土) 15:00開演

●岸本雅美 ピアノ・リサイタル

第177回

11月29日(木) 16:30開演

●善竹忠重、忠亮・狂言父子会

演目/「千鳥」「鈍太郎」

第178回

12月1日(土) 15:00開演

●長谷川陽子 (チェロ)

ミカ・ヴァエユリユネン (アコーディオン) デュオの午後

●入場無料



会場/神戸学院大学メモリアルホール(9号館)

主催/神戸学院大学

後援/兵庫県・(財)神戸市民文化振興財団

インターネットホームページ <http://www.kobegakuin.ac.jp/>

神戸学院大学イベント情報

- お申込方法 ◎官製往復ハガキを使用してください。申込者多数の場合は抽選になります。
 - ・ 往信裏面に①公演日 ②公演名 ③住所 ④氏名 ⑤電話番号をご記入ください。
 - ・ 返信表面にお申し込みの方の郵便番号、住所、氏名をご記入ください。
 - ・ 返信裏面は空白のままをお願いします。
 - ・ 1枚につき1公演、1名様のみのお申し込みになります。
 - ・ 受付期間は各公演の1カ月前～2週間前(必着)です。
 - ・ 学齢期に達していないお子さまの申込および入場はできません。
 - お申込み・お問い合わせ先
〒651-2180 (郵便番号のみで到着します)
神戸学院大学グリーンフェスティバル係 電話078-974-1607
 - 交通経路と所要時間
 - ① JR「明石」駅より「神戸学院大学行」バスに乘車(約20分)
 - ② 神戸市営地下鉄「伊川谷」駅より「神戸学院大学行」バスに乘車(約15分)
 - ③ JR「朝霧」駅より「神陵台行」バスに乘車、終点下車後徒歩約12分
- ※お車でのご来場は固くお断りいたします。

千本博愛 チェロ・リサイタル

- 曲目 ●ショスタコーヴィチ……チェロ・ソナタ 二短調 作品40
- ブラームス……チェロ・ソナタ 第2番 へ長調 作品99
- エルガー……愛の挨拶 作品12 他

日本を代表するチェリストのひとり、日本音楽コンクールで第2位に入賞され、パリで巨匠アンドレ・ナヴァラ氏に師事、ドイツ、フランス、カナダのオーケストラで首席奏者をつとめられ、カナダの大学で教鞭もとられたが、帰国されて読売日本交響楽団の首席をつとめられて以来、オーケストラとの協演や室内楽でヨーロッパ、南北アメリカなどで活躍しておられます。ピアノの安宅さんは、1989年春にヴァイオリンの漆原啓子さんのお相手フェスティバルに登場された石岡久乃さんと組んでおられるピアノ・デュオ「プリムローズ・マジック」で有名ですが、その他の室内楽、またオーケストラとの協演でも活躍しておられます。ブラームス、ショスタコーヴィチの本格的ソナタの前半と、後半の小品集で組んだ曲目は大いに魅力的です。お二人ともフェスティバル初登場、ショスタコーヴィチのソナタも初紹介です。

川島成道 ヴァイオリン・リサイタル

- 曲目 ●ヴィターリ……シャコンヌ
- ベートーヴェン……ヴァイオリン・ソナタ 第9番 イ長調 作品47「クロイツェル」
- クライスラー……愛の悲しみ/愛の喜び
- ガーシュウィン……歌劇「ボーギーとベス」より 6つの小品
- サラサーテ……バスク綺想曲 作品24

注目の新人のフェスティバル初登場です。英国王立音楽院の出身でイギリスに在住ですが、最近では再々帰国されて、その抒情性豊かなヴァイオリンを披露しておられます。幼少にして視力を奪われたハンディを克服しての今日の活躍はすばらしいものですが、そんな点から彼の芸術に接するのは氏も望まれないでしょう、本質的に誤ります。ただ、演奏というものはそのアーティストの人間性が反映されることは間違いなく、人の心に響く暖かい音を目指すという氏のヴァイオリンに心打たれる人は多いでしょう。プログラムもヴァイオリン曲の本道を並べた申し分ないもの、同窓生でフェスティバル2回目の登場の風呂本佳苗さんのサポートで、大曲「クロイツェル・ソナタ」から技巧を味わう小品まで、ヴァイオリン音楽の魅力にひたれるひとときです。

ロニー金管五重奏団 コンサート

トランペット/小林好夫、古田俊博 ホルン/猶井正幸 トロンボーン/石川浩 テューバ/稲川榮一

- 曲目 ●ビゼー……カルメン・メドレー
- アンダソン……トランペット吹きの日/トランペット吹きの子守歌
- バーンスタイン……「ウェスト・サイド・ストーリー」より マリア/トゥナイト
- ドイツイ民謡……もみの木
- イギリス民謡……ロンドンデリーの歌 他

このアンサンブルはテューバ奏者の稲川榮一氏を中心に金管五重奏のレパートリー研究会として発足し、長年にわたり古典から現代まで幅広い研究を続けてきましたが、2年前に正式に「ロニー金管五重奏団」として結成されました。その名称は同氏がベルリン音楽大学留学中に師事されたエンゲルス教授の愛称で、今は亡き恩師を偲んで名付けられたとのこと。メンバーは東京の音楽大学の専任教員やオーケストラの首席奏者から成ります。中学などで吹奏楽に打ちこんでいる人たちが、若い方々へのクラシック入門的な意味もこめて、どなたもご存知の楽しいメロディの曲がずらりと並ぶ目玉が組まれました。楽器についてのお話やデモンストラレーションも披露していただく予定です。お馴染みの猶井氏以外の4名はフェスティバル初登場です。

岸本雅美 ピアノ・リサイタル

- 曲目 ●スケラルラッチィ……ピアノ・ソナタ ホ長調 L.23/二短調 L.413/二長調 L.465
- ショパン……夜想曲 八短調 作品48-1/バラード 第1番 卜短調 作品23
- リスト……メフィスト・ワルツ 第1番
- シューマン……交響的練習曲 作品13

地元出身で大阪音楽大学及び大学院を修了した新鋭のフェスティバル初登場。豊かな表現力と音色の多彩さ、メロディを歌わせるセンスの良さを評価され、98年の「日本人コンサートベスト10」の中でもう一度聴きたいピアニストの一人に挙げられました。また、「レコード芸術」誌などで該博な知識により、読者に適切かつ親切なアドヴァイスを与えておられる評論家・谷戸基岩氏にあるところで紹介され、いろいろご教示を受けたとき、「若い日本人ピアニストで推薦される方は」との問いに、氏がまず挙げられたのが岸本さんでした。昨年フェスティバルに登場された名指揮者ゲルハルト・ボッセ氏も彼女を高く評価され、同氏との協演にしばしば起用しておられます。曲目もロマン派を中心にピアノの魅力を十分に発揮する名曲が並び、特にフェスティバル初紹介のシューマンではスケールの大きい名演が期待できます。

善竹忠重、忠亮・狂言父子会

- 演目 ●「千鳥」善竹忠亮・「鈍太郎」善竹忠重

狂言がブームです。そういう波は過去にもありましたが、今回は若い20代の狂言師たちが中心になっているところに特徴があります。ただし、生まれたときから祖父や父親の薫陶を受けて育ってきたのですから、若いといっても芸歴の長さは年齢と同じ。そこに伝統芸能の強さと魅力があります。芸能が親から子へと引き継がれていくとはどういうことか。父と子の狂言会をシリーズ企画にして、その秘密を探っていきます。第一回は善竹忠重・忠亮のお二人。「千鳥」を演じる忠亮師はまだ大学生、貴公子然とした容貌で人気上昇中。一方、忠重師には「鈍太郎」をお願いしました。祖父弥五郎師、父先代忠一師師も得意にした大曲に初めて挑みます。善竹家の持ち味である端正な芸風が、父と子の間でどう伝わり、どう個性になるのか？狂言の笑いとともに、それを支える演者の技の魅力を堪能してください。

長谷川陽子(チェロ)・ミカ・ヴァエユリュネン(アコーディオン) デュオの午後

- 曲目 ●ヘンデル〜ハルヴォルセン……バスツカリア
- プロコフィエフ……スケルツォ
- スクリャーピン……ロマンス
- プロコフィエフ……行進曲(歌劇「3つのオレンジへの恋」より)
- チャイコフスキー……アンダンテ・カンタービレ(「弦楽四重奏曲 第1番」より)
- バルトーク……ルーマニア民俗舞曲
- ムソルグスキー……組曲「展覧会の絵」

レジデント・アーティストである陽子さんは、新しいレパートリーの開拓にも極めて意欲的で、昨春にはカバレフスキーとモーツァルトの協奏曲で満場をうならせましたが、今度はなんとアコーディオンとの協演という珍しいかたちに挑みます。お相手のヴァエユリュネン氏は陽子さんが学ばれたのと同じフィンランドのシベリウス音楽院の出身、国際コンクールで8回の優勝の受賞歴を持ち、アコーディオンの新しい可能性を探るべく、多彩な活躍を続けておられます。祖父弥五郎師、父先代忠一師師も得意にした大曲に初めて挑みます。善竹家の持ち味である端正な芸風が、父と子の間でどう伝わり、どう個性になるのか？狂言の笑いとともに、それを支える演者の技の魅力を堪能してください。